

第24回 市長と話そうの様子

開催日時	2026年3月27日（金） 14:00 ～ 15:30	場所	荘田平五郎記念こども図書館 よみきかせの部屋
団体名	野上作品を読む会		
団体概要	毎月第三金曜日に臼杵図書館で野上作品の読書会を実施。読書会では、毎回4人程度が数ページを順番に音読し、その後、感想や解釈を話し合う。現在は『秀吉と利休』を読書中。 会の目的は「野上作品を楽しんで読む」「会員同士の情報交換と交流」「野上文学・野上弥生子の存在を語り継ぐ」の三本柱 会員数：8名		
話し合いのテーマ	①野上弥生子の継承 ②小中学校での野上作品の読書及び読み聞かせ ③三月予定の野上作品読み聞かせ会への支援 ④会の現状と今後の展望について		
参加者	7名（団体メンバー6名、西岡市長）		

対話の様子

対話では、野上弥生子の継承や団体の今後の展望などについて意見交換が行われました。参加者からは、以下のようなお話やご意見がありました。

- ・ 会の活動として、野上弥生子の顕彰とまではいかないが、野上作品を楽しく読んで語り継ぐことが継承につながると考えている。
- ・ 会の目下の目標は、『秀吉と利休』を最後まで読み切ること。『秀吉と利休』は読み物として大変面白い。
- ・ 野上作品の中には、「臼杵」という直接的な地名は出なくとも、方言や風景描写から臼杵が舞台であると分かるものが多い。臼杵の空気や風景、暮らしが作品に色濃く染み込んでおり、野上文学のルーツは臼杵にあると感じている。また、野上弥生子は、南蛮貿易やキリスト教など、戦国時代から江戸時代にかけての臼杵の歴史を、最初に文学として活字にした存在であると考えている。
- ・ （観光ガイドも務める会員からの発言）臼杵市は、江戸時代初期の「町絵図」に基づく町並みがほぼそのまま残っており、現在も古地図を片手に散策できる、まち歩きに適した町である。野上弥生子の小説『迷路』の中に、「当時のポルトガル人宣教師が今の臼杵に来て困らないだろう」といった趣旨の一節があるが、実際の観光地図作成の際にも、この視点を引用・活用している。
- ・ 野上弥生子の人の心の裏表や、ひだのような微細な感情の動きまで描き出す表現力が素晴らしい。
- ・ 一般にはあまり知られていないが、野上弥生子は童話や児童向けの作品も多数執筆している。市教育委員会が復刻版を制作した代表的な童話集『やさしいいくさびとの心』を教材として、当会のメンバーが市内の小中学校で読み聞かせ活動を行っている。
- ・ 「臼杵を知ることは臼杵を愛すること」だと感じており、野上作品を通じて臼杵の歴史・文化・言葉を学び直している。臼杵における伝統の継承と時代の変化のバランス（「変わってはいけない部分」と「変わるべき部分」）を意識しながら、本市の誇るべき文化を次世代へと継承していきたい。

市長からは、以下のような話がありました。

- ・ 令和8年は「野上弥生子文学記念館」の開館40周年という節目にあたる。市としても、こうした節目を契機として、市民の皆様とともに野上弥生子が残した功績や文化を大切に育んでいきたい。
- ・ 野上弥生子の作品を身近なものとする皆様の読書会や読み聞かせ活動は、本市にとって大変貴重な取り組みである。私自身も時間を見つけて、改めてその作品に触れ、学びを深めていきたいと考えている。

たくさんの貴重なご意見ありがとうございました。“市長と話そう”では、市民の皆様の声を聴き、一緒に考え、よりよい臼杵市の未来を描くため、今後もさまざまな団体と対話を行っていきます！

